

林修先生と学ぶ「国消国産」講座



命を育むために最も大事な「食」 SDGsの観点でも、自分事として捉えていきたい

JAグループサポート・林修

なぜ今?
こくしょく こくさん
国消国産

世界の平和にも大切な 「食」の安定

世界の紛争地域や自然災害の被災地で食料支援を行う「WFP」という国連機関が、2020年のノーベル平和賞を受賞しました。あらためて、食料の安定供給が、その国の安定や世界の平和にとっていかに大事であるかが示されました。受賞を報じるこちらの新聞記事にもあるように、世界の9人に1人が十分な食料を得られないといわれています。私たちは飢餓の実態を他人事のように捉えがちですが、自然災害や人口増加などによって、世界における食料の安定供給のリスクは、確実に高まっています。

ノーベル賞のノーベル委員会は9日、2020年のノーベル世界食糧計画(WFP)本部・ローマに選ばれたと発表した。勤めや自然災害に加え、新型コロナウイルス感染拡大で飢餓の危機が深刻化する中で、食料を届ける国連機関の同賞が贈られるのは初めて。「コロナ禍での国際協調を重視している。▼2面すべての人々に11面の連帯の重きがある」として、WFPの「食料を安全に供給する機関」に選ばれた。

ライアン・シンセン委員長は、「飢餓撲滅努力と和平の影響を受けた地域の平和のよろづや条件への貢献」、また、「飢餓と戦争や武器による暴力との対立」などを理由で選ばれた。委員会は、「戦争や武器による暴力を防ぐための努力」を掲げた。食料と対立することはできない」と指摘した。

国連機関

国連世界食糧計画 (WFP)

飢餓のない世界を目指して活動する国連の食料支援機関で、1961年に設立された。緊急時に命を救い、暮らしを守ることや、その後の暮らしの再建、慢性的な飢餓や栄養不良症を減らすことなどを目標とする。世界の9人に1人が十分な食料を得られないといわれるなか、2019年には88の国・地域で約9700万人に支援を実施。1万7千人以上の職員の多くは途上国での現地で直接、支援に当たる。外務省などによると18年の全体の政府援助額は約1億3千万㌦。民間からの寄付は約1200万㌦だった。46人の日本人職員(専門職以上)が勤める。

世界食糧計画に平和賞

ノーベル賞「飢餓と闘う努力」

出典：朝日新聞(2020年10月10日付) 朝日新聞社に無断で転載することを禁じます(承諾番号21-0896)

食料を輸入することについて、環境面からも考える意識

例えば、同じ100円のレモンでも、米国産と国産では何が違うでしょうか？もちろん、味や品質も違いますが、米国産は1万キロ以上を大型船舶で、国産は数百キロをトラックで運んでおり、輸送にかかるエネルギーと環境負荷が大きく異なります。食料を輸入するとはどういうことか、食料の安定という面だけではなく、環境面からも考える必要があります。

だから今!
こくしょく こくさん
国消国産

SDGsの達成にもつながる「国消国産」

「国」民が必要とし「消」費する食料は、できるだけその「国」で生「産」していくという「国消国産」をすすめることは、食料を輸入に依存しないということにつながり、ひいては、食料の安全保障と持続可能な農業の促進を目標とするSDGsのゴール2「飢餓をゼロに」や、ゴール12「つくる責任 つかう責任」、ゴール13「気候変動に具体的な対策を」にも通じるものです。



ここがポイント!

- ① 食料の安定は、世界の平和にもつながっていく
- ② 食料の輸入について、食料の安定という面だけでなく環境面も意識が必要
- ③ 「国消国産」で、SDGsの達成にも貢献



耕そう、大地と地域のみらい。JAグループ